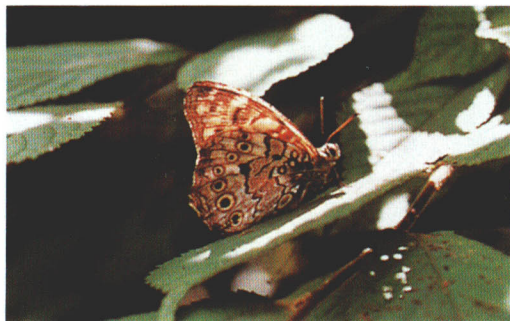


6 五十人山の動物

地には、セキレイ類・コサギ・カルガモなどもみられる。冬には、あおくびとよばれるマガモや、オシガモとよばれるオシドリなどもみられる。キジ・ヤマドリに関しては、狩猟のために、毎年60～70羽を放鳥しているという。夜になると、ヨタカやフクロウの「キョキョキョキョ……」・「ゴロスケホッホー」という鳴き声が聞こえてくることもある。

は虫類では、シマヘビ・ヤマカガシ・アオダイショウ・マムシ・ジムグリなどが生息している。地元の人が、「カラスヘビ」とよんでいるヘビの正体は何であろうか。ほかにカナヘビ・トカゲも日当り



キマダラヒカゲ

のよい山道に顔を出すことがある。

両生類では、モリアオガエルが野行や木取場などの沼に生息している。ふつう、このような沼には、イモリも一緒にみられる。五十人山には、ふつうガマガエルとよばれるヒキガエルや、トノサマガエル・アカガエル類がみられ、夏湯や菅ノ又の沢に、カジカガエルも生息している。また、周辺の沢には、ヤマカジカとよばれているサンショウウオが生息している。地方によっては、沢沿いの土や落ち葉を掘ったりすると出てくることもあるので、ヤマドジョウとよんでいるところもある。



アゲハモドキ